下京図書館だより 2021 ふゆ

3年生
4年生

『オンボロやしきの人形たち』

フランシス・ホジソン・バーネット／作　尾崎愛子／訳　平澤朋子／絵　徳間書店

妖精の女王は，シンシアの部屋にある「オンボロやしき」の人形たちが大好きです。人形たちはとても明るいので，家来の妖精たちがいつも遊びにいきます。「オンボロやしき」は，シンシアがおばあさんからもらったものです。おばあさんは人形たちの服を作ってあげていましたが，シンシアはそんなことはしません。しだいに人形も家もボロボロになりました。ある日，シンシアは新しい人形と「ピカピカ城」をプレゼントされました。そのことによって「オンボロやしき」の人形たちにおそろしいことが起こります。

『ホタルイカは青く光る』

阿部秀樹／写真と文　小学館

日本の海にとても不思議なイカがいます。小さな小さなイカなのですが，漁師さんが網をしかけて，夜そのイカを引き上げると，網の中が青い小さな光でいっぱいになるのです。海の生き物ですが，光を発することから昆虫の“蛍”になぞらえて「ホタルイカ」とよばれています。ホタルイカは，日本海からオホーツク海にかけて土佐湾より北の太平洋側に分布し，特に富山湾で名物となっています。ホタルイカがどうやって光を出すのか，そして光を放つという特徴以外に，ホタルイカにはもうひとつの不思議があることが本の中に書かれています。

『絵本江戸のくらし』

太田大輔／作　講談社

東京が「江戸」と言われていた時代は，今とまったくちがった暮らしをしていました。電気もガスもなかったため，ご飯を作るときは薪で火をおこしてかまどでたいていたのです。暑いときはエアコンがないため，扇子かうちわであおぎ，寒いときはこたつや火鉢で暖まっていました。生活に必要な道具や住まいなど，江戸時代の人々のくらしを，絵本でわかりやすく現しています。今のように便利でなかった時代，人々が知恵をだしながらくらしていたようすを知ることができます。

『けんか餅』

桐生璟／作　野間与太郎／絵　フレーベル館

時代は江戸。日本橋の名菓子屋「鶴亀屋」の跡継ぎの若旦那が，あろうことかお店に来たお客と取っ組み合いの大ゲンカ！それが原因で，菓子職人見習いの豆吉が巻き込まれることに。お江戸のまめ知識として，江戸時代のお金や江戸の火事，髪型などを豆吉が解説しています。「火事とけんかは江戸の華」といわれるくらい江戸時代は，火事とけんかが多かったそうですよ。

『よあけ』

あべ弘士／作　偕成社

あの日まだ子どもだったわたしは，じいさんと舟にのって“クロテン”や“カワウソ”の毛皮を町へ売りに行くことになった。じいさんは村いちばんの猟師だ。ゆう闇がせまるころ，じいさんは川にせりでた岩山に舟をつけ，猟師たちの聖地に酒をささげてなにやらぶつぶつささやいた。じいさんとわたしは夜になり火をおこして夕飯を食べたあと，毛皮にくるまり草の上に横になって満天の星を見た。舟をこぎだすと波が後ろからついてくる情景は，絵の中に吸い込まれてしまいそうになります。どの場面も大自然のすばらしさをとてもよくあらわしている絵本です。

『世界のことわざ　ものの見方が変わる！』

時田昌瑞／監修　ナツメ社

いろいろなことわざがたくさんありますが，みなさんはどのぐらい知っていますか。日本以外の国々にもことわざが数えられないほどあります。この本では，世界各地のことわざのうち，４４個を取り上げて解説していて，ことわざの意味や背景，文化・習慣，その国の地理・歴史・風土などについて書かれています。勇気がわくことわざ，賢くなれることわざ，そしておいしいことわざなども紹介されています。この本に出てくる国々の場所も載っています。国や地域によってどんなことわざが載っているのか，くらべてみるのもいいですね。

『そばにいるよ』 スムリティ・ホールズ／文　スティーブ・スモール／絵
青山南／訳　化学同人

「きみがどこへ行こうと，何をしようと，楽しいときも，悲しいときもそばにいるよ。」とクマがリスに言った。ある時リスは，「ぼくって，ひとりにならなければいけないんじゃないのかな？」とクマに言った。クマがいつもそばにいると，きゅうくつで居場所がないと感じていたから。それを聞いたクマは，去って行ってしまった。ひとりになったリスは，静かで広くて落ち着けて，何をするのもひとりで決められるし，持っているもの全部自分のもの。分けっこしなくてもいいし，何もかもが自分の思いどおり！でもね…。

『古典がおいしい！平安時代のスイーツ』
前川佳代／著　宍戸香美／著　かもがわ出版

平安時代，どんなお菓子があったのでしょう。『枕草子』ではかき氷があったことが書かれています。
『源氏物語』では，「ふずく」という赤ちゃんが誕生したときのお祝いの席にだされるお菓子が載っています。ほかにも『今昔物語』や『土佐日記』などにもいろいな種類のお菓子がでてきます。
今の時代にありそうなお菓子もでており，レシピも紹介しています。
平安時代のお菓子作りにぜひ挑戦してみてください。

『あんなにあんなに』 ヨシタケシンスケ／著　ポプラ社

あんなに一生懸命お掃除したのに，もう散らかしている。
あんなに泣いていたのに，もう笑っている。あんなに小さかったのに，もう…。
毎日の暮らしのなかにある「あんなに」の中で小さかった子どもは大人になるのです。この本に登場するお母さんは，自分の子どもに寄り添い，育てながら年を重ねていきます。

図書館で すてきな本に であえると いいね！

『１００さいの森』 松岡達英／著　伊藤弥寿彦／監修　講談社

東京のまん中に明治神宮の森があります。なぜこんなに大きな森があるのでしょう。１９１２年（明治４５年）明治天皇が亡くなると，天皇をおまつりしてほしいという人びとの声により，明治神宮を創ることになりました。そして神社には「鎮守の森」が欠かせないため，森を創ることになりました。
１００年以上前に人の手によって創られた森。一番最初に植えられた「スダジイの木」が，全国各地から運ばれてきた木を植える作業の様子や，森で育った生き物たちの営みについて，３羽のヤマガラたちに語りながらお話は進んでいきます。

『北里柴三郎と千円札物語』
オフィス３０３／編著　ほるぷ出版社

２０２４年に発行される新しい千円札の肖像画に，北里柴三郎が選ばれました。この本は，“北里柴三郎”とはどういう人物だったのかをくわしく紹介し，どうして選ばれたのか，なぜこの図柄になったのか，また，お札の偽造をふせぐためにどのような工夫がされているのかが書かれています。
さらに，これまでの千円札の“野口英世”“夏目漱石”“伊藤博文”の伝記やその当時の千円札の価値と歴史もわかる一冊です。

下京図書館

〈場所〉
下京区新町通松原下る富永町 110-1
下京修徳ふれあい福祉会館４階

〈開館時間〉
月・水～金曜日
午前９時半～午後７時（しばらくの間）
土・日曜日・祝日
午前９時半～午後５時
（火曜日はおやすみ！）